

平成19年度 事務事業評価表	担当	産業環境部 清掃課	内線等	8007
事務事業名	大塚最終処分場管理運営事業		事業コード	4. 維持管理事業
根拠法令等	蒲郡市廃棄物の減量及び適正処理に関する規則		C規則	

総合計画での位置付け

基本目標	1. 人と自然が共生する潤いあるまちづくり	施策名	廃棄物
------	-----------------------	-----	-----

事務事業の内容

対象（受益者）	市民のために
手 段	ごみ処理場の合理的な管理運営をすることによって
想定する成果	不燃物の適切な最終処分を図る

事業の概要

項 目	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度計画
年間処分量	3,030t	2,975t	3,000t
累積埋立量	23,130m ³	24,575m ³	27,575m ³

成果指標

成果指標名	不燃物1トン当たりの処理経費	埋立率
成果指標の説明	事業費(千円) / 処分量(t)	累積埋立量 / 全体埋立容量 × 100

事業の進捗状況 (一般 会計) (単位：千円)

		平成18年度決算（実績）				平成19年度決算（実績）				平成20年度予算（計画）			
成果指標		10,240円 / t				9,155円 / t				8,889円 / t			
成果指標		20.5%				21.7%				24.4%			
事業費	事業費	18,574				16,302				17,253			
	人件費	12,454				10,934				9,414			
	(人数)	正規	1.6	非常勤		正規	1.4	非常勤		正規	1.2	非常勤	
	合計	31,028				27,236				26,667			
財源内訳	国												
	県												
	市債												
	その他	1,766				1,886				1,959			
	一般財源	29,262				25,350				24,708			

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	19評価	16評価	19評価	16評価	
達成度	2	2	2	2	当初の計画処分量より、搬入量を削減している。
経済効率性	2	2	2	2	年間搬入量が当初計画の半分程度であり、施設延命を実施している。
事務効率性	2	2	2	2	現地にて処分場の搬入量の統計を作成している分、事務量の分散が図られている。
必要性	3	3	3	3	市民の環境保全と住民生活における衛生に関する必要不可欠の施設である。
小計	9	9	9	9	
施策への貢献度	2	-	2	-	「適正な最終処分」の達成がなされている。
合計	11	9	11	9	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	今後一色不燃物最終処分場が閉鎖されると搬入量が増加し、重要な施設となる。
------	---	---	---	---	--------------------------------------

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

前回(H16評価時)「今後改善すべき点」として記載した内容及びその実施状況

前回(H16評価時に)記載した「今後改善すべき点」
処理水について安定した処理を実施するため、生物処理から薬品処理に移行を検討する必要がある。一色不燃物最終処分場が閉鎖になると自然災害廃棄物等が搬入されることが想定され、どの種類の廃棄物まで受入が出来るのか検討する必要がある。
上記改善点の実施状況
現在検討中

今後さらに改善すべき点

雨が降り続いたあと処分場内に溜まった雨水処理に時間がかかるため、短時間で処理する方法を検討する必要がある。

平成21年度予算に反映する項目

浸出液の安定処理をおこなうための薬品処理を実施するため、薬品費を予算計上したい。
--

今後の方向性

拡大、充実

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

内部管理事務事業、義務的事業は必要性を、また施策名がその他のものは施策への貢献度を評価していません。

